

27年度版教科書つれづれ 11

「どう やって みを まもるのかな」(東京書籍・小学1年)の巻

加藤 郁夫(読み研事務局長)

「どう やって みを まもるのかな」は東京書籍・小学1年(上)の説明文である。子どもたちが小学校に入って、最初に学習する説明文といってよい。題名からも分かるように、動物の身の守り方について述べた文章である。最初に学ぶ説明文でもあり、文章には漢字は一文字も使用されていない。すべて平仮名で、文節ごとにスペースが入っている。

「やまあらし」「あるまじろ」「すかんく」の三つの動物を取り上げ、それぞれの動物の身の守り方を説明している。

最初に、この文章の構成を見ておこう。この文章は、「はじめ—なか」の二部構成になっており、「なか」に「やまあらし」「あるまじろ」「すかんく」の三つの動物のことが説明されている。段落で示すと、以下のようになっている。

*この文章は、一段落一文なので、段落の数と文の数は同じである。

1段落	はじめ
2～17段落	なか
2～6段落	やまあらし
7～11段落	あるまじろ
12～17段落	すかんく

23年版(以下旧版)と27年版(以下新版)では、文章の変更は全くない。ではどこが変わったのか。「やまあらし」の文章で見てみよう。

やまあらしの絵がページの下にあり、上には次の文章が記されている。

これは、やまあらしです。
やまあらしの せなかには、ながくて かたい とげが あります。
どのように して みを まもるのでしょうか。

そしてページをめくると、背中の棘をたてたやまあらしの絵が下に、上の方に下の文章が記されている。

やまあらしは、とげを たてて、みを まもります。
てきが きたら、うしろむきに なって、とげを たてます。

文章やレイアウトに変化はないのだが、旧版は次のように書かれていたのである。

これは、やまあらしです。
やまあらしの せなかには、ながくて かたい とげが あります。

どのように して みを まもるのでしょうか。

やまあらしの説明と「どのように して みを まもるのでしょうか。」という問いの文の間に、行アキがあったのである。ところが新版では、行アキが無くなっている。3つの文が最初に示した

や高校に入っても大事な問題なのである。小学校中学年、高学年さらには中学・高校へとつながっていく指導として大事にすべきなのである。東京書籍の教科書では、その一番最初となる説明文が、この「どう やって みを まもるのかな」なのである。

旧版では、問いの文だけ行アキによって切り離されていた。だから、問いの文を見つけることは容易であったといえる。しかし、問いは、いきなり出てくるものではない。

どのように して みを まもるのでしょうか。

この問いの文だけでは意味をなさない。身を守るのは誰なのかが、この文だけではわからないからである。この前にある

これは、やまあらしです。

やまあらしの せなかには、ながくて かたい とげが あります。

という、二つの文があってこそ、問いの文は意味を持つのである。つまり、この三つの文はひとまとまりととらえる必要がある。ひとまとまりととらえた上で、三番目に問いの文があることが理解できることが大切なのである。問いの文だけが目立てばいいという、単純な問題ではない。

このような考えから、新版において行アキをなくして、三つの文をひとまとまりとして表記したことを私は評価する。細かな改訂であるけれど、一歩前進の改訂といえる。

付け加えて、もう一つ述べておきたい。

旧版には、文章が終わったあとに特に手引きは載せられていなかった。ところが、新版では次のような「手引き」が載せられている。

●どうぶつは、どんな からだを して いますか。

どのように して、みを まもるのでしょうか。

この「手引き」は、文章における問いを意識させる上でも意味のあるものといえる。この点においても、新版の改訂を評価したい。